

## 10月の基調判断 新型コロナウイルス感染症の影響を受け 持ち直しの動きは弱い

製造業	➡	緩やかな持ち直し
観光	↑	一部に持ち直しの兆し
小売店販売	↑	持ち直しの兆し
乗用車販売	➡	弱含み

住宅着工	➡	底堅い動き
公共工事	➡	増加傾向にある
雇用	➡	持ち直しの動き
企業倒産	➡	低水準で推移している

[前月の基調判断からの変化] ↑ 引き上げ ➡ 据え置き ↓ 引き下げ

注) 1. 基調判断は足元の状況  
2. 小売店販売は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の販売動向

### 大分県の主要経済指標の動き

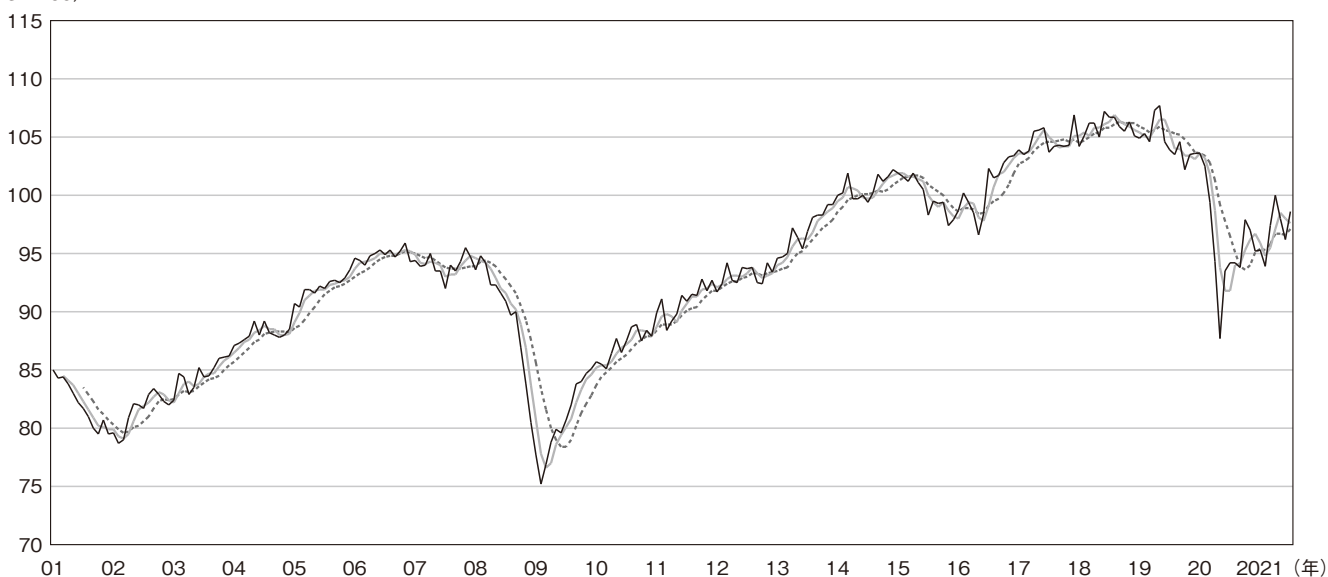
	2020.8	9	10	11	12	2021.1	2	3	4	5	6	7	8
鉱工業生産指数	●	●	○	●	●	●	●	●	○	○	○	○	—
小売店販売額	○	●	○	○	○	●	●	○	○	●	●	●	●
乗用車・軽乗用車販売台数	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●
新設住宅着工戸数	●	○	○	●	●	●	●	○	●	○	●	○	○
公共工事保証請負額	●	○	●	○	○	○	○	●	●	○	○	●	○
ホテル宿泊客数	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
新規求人数	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○	○	○
企業倒産件数	●	●	△	△	△	●	○	△	○	○	△	●	○
プラス指標の割合	12.5	25.0	50.0	37.5	37.5	25.0	37.5	37.5	75.0	75.0	50.0	50.0	71.4

注) 1. 指標は前年同月比較 ○=前年比好転 △=前年並み ●=前年比悪化  
2. 鉱工業生産指数は公表日の関係から最新月「—」表示  
3. 小売店販売額は、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店の合計  
4. 公共工事保証請負額は西日本建設業保証分  
5. ホテル宿泊客数は県内宿泊施設の計

### DKK 指標 (2021年7月)

(2015=100)

—— DKK指標 — 3ヵ月後方 ..... 7ヵ月後方



注) 3ヵ月後方移動平均は足元の変化をつかみやすく、7ヵ月後方移動平均は変化が定着しつつあることを確認する値。  
※本指標は、大銀経済経営研究所オリジナルの景気指標です。大分県経済の把握に重要と判断した指標についてCIモデルによる分析を通じて算出したものです。

DKK 指標 (CI) によると、7月の指数は前月比+2.4の98.6と3ヵ月ぶりに上昇しました。項目別では、「宿泊客数」や「百貨店・スーパー・専門量販店販売額」、「雇用保険初回受給者」などがマイナスに寄与しました。